

メガネ



眼鏡橋(長崎市)
「長崎の橋大図鑑」<http://www.nagasaki-tabinet.com/hashii/index.html>

Aブロック 全作品と講評

www.columnland.net/

にて作者さん＆読者さんの声実況中

あなたとのさようなら

あなたと出会えてから

私は世界がクリアに見えるようになった

かつて私の世界は

ただひたすらに輝いていて

けれどある日…

それはあつという間に、私から世界が遠ざけられた

経験したことのないぼやけた世界へと私は葬り去られた

だけどあなたは私を変えてくれたの

心から、ありがとう

そして、さようなら

やっぱり私、変わりたくて…

これからはコンタクトレンズと共に生きて行きます

眼鏡とは？

メガネを漢字で書くと「眼鏡」となる。私は以前この漢字に「鏡」が入っていることを疑問に感じていた。今回はなぜ鏡が入るのか眼鏡について考えながら考察したい。

眼鏡をかければ今までよく見えなかったものがはっきりとわかるようになる。しかし、少し眼鏡合わないだけでよく見えていたものも、ぼやけて何が何だかわからなくなってしまう。眼鏡は掛けている人の視界を変えてしまう。

そして、どんなにかわいい女の子でも、眼鏡一つで非常に残念で醜い見た目になり、気持ちが悪めてしまうことがある。どんなに頭の悪いおバカさんでも、眼鏡をかけただけで、急に賢そうに見え勉強ができそうに見える。このように「眼鏡は顔の一部」という言い回しあるとおり、眼鏡一つでその人の顔やイメージをかえてしまう。これらだけではない。眼鏡は掛けた人の性格をも変えてしまうようである。

つい先日秋葉原を歩いていたとき、中学校同級生に出くわした。彼女はたくましく男らしい性格でよく暴力をふるわれ泣かされたこ

とも数えられないほどあった。しかし、当時とはちがって眼鏡をかけていた。そのせいか男らしい性格はなりをひそめ、白いエプロンを着て丁寧な口調で話しかけられた。人間、変わるときは変わるものである。

こう考えてみると眼鏡は不思議なものである。たった一つでその人の視界や見た目、イメージ、性格さまざまなものを変えてしまう。人類は数多くの素晴らしい発明がされてきた。眼鏡もそのうちの一つであろう。その中でめがねのように補聴器など人間の能力を補うような発明はたくさんある。しかしその中で人間自体を根本的に変えてしまうようなものはいくつあるだろうか。私はほかに見つけることは出来ない。

このように考えると眼鏡には不思議な力がある。ほかのどの道具をも為し得ない不思議な力だ。言いかえれば神がかっている能力を眼鏡は持っている。

神社の境内には実は鏡がある。日本人は神は鏡に宿ると考えていたからだ。そう考えると眼鏡に「鏡」の字がはい入ることは眼鏡の能力を考えれば当然かもしれない。

俺のメガネ

小学校5年の冬頃だったか、テレビで形状記憶メガネのコマーシャルをやっていたんです。

その内容がメガネの耳の部分を両手で持って、ぐにゃっと曲げてても元通りに戻ると言うものだったんですよ。はつきり言って、そんなに曲げてても本当にいいのかよ！！と突っ込みたくなるほど曲げてました。

僕もその年の夏に、初めてのメガネを買って毎日つけていたんですけどね、その時に「このメガネは形状記憶タイプなので、曲げたりしても元に戻ります。」的なことを聞いていたんですよ。

まあ僕もまだ小学5年という若さだったのでね、普通にやってみたくなったんですよ。

これが結構すごくて、かなり曲げてても折れないんですよね。

折れないんです。

それから一週間くらいたったある日、塾のみんなにも見せたくなくてですね、周りにたくさんのお客を集めてまげてたんですよ。

うん。

まあ普通にね。

折れました。

根元辺りから、ごっそり折れました。

友達ももの凄く「しいーん。」てなりましたね。

だっておれたんですから。笑

みなさんも折れますんで気をつけてくださいね。

夢か現か

「真君ってメガネ外すとかっこいいよね。」

昼休み、授業で疲れた目を休ませようと思いきやメガネを外すと突然話し掛けられた。

「へ？え？あ？そ、そんなことな、ないよ。」

男友達すらいらない僕が女の人に話し掛けられるなんていつ以来だろうか。うまく返事ができなかった。

「そうかなー？私はかっこいいと思うなー。」

何を言ってるんだ？彼女いない暦11年歳の僕だ。そんなことありえない。きつと夢を見てるんだ。妄想のし過ぎでついに夢に出てきたか。ほっぺをつねってみよう。…痛い。どうやら現実のようだ。

「なにしてるの？それよりさ、良かったら一緒にお昼食べない？今日友達が休みで私も一人ぼっちなんだ。」

え？お昼？一緒に？またまたご冗談を。もしかしたら彼女は日本語が下手で本当は

「お前きめえから帰れよ」って言いたいのかもしれない。すみません今すぐ帰ります。ちよ、ちよっとどこ行くの！？お昼食べようよ！

どうやら本気らしい。そうと分かればこんなチャンスを逃すわけにはいかない。

「う…うん。僕なんかでよければ。」

「あはは、「僕なんか」って。もっと自信を持ちなよ。」

こんな漫画みたいな会話生まれて初めてだ。嗚呼生きてて良かった。

「あのさ、真君ってさ、好きな人とかいるの？」

正直だったいま貴女に惚れました。もてない男なんてそんなもんだ。でもそんなこと口が裂けても言えない。

「えと、たぶんいないかなあ。」

「たぶんってなんだそれ。」

「いや、実は気になる人はいるんだ。」

「え？だれだれ？」

貴女です。なんて言えるわけがない。

「それは秘密。」

「ぶー。いいじゃん教えてくれたってー。ケチ。」

こんな想像上の世界でしかありえなかった会話をしてるうちに大分時間が経った。

「あ、そろそろ次の授業の教室行かなきゃ。また一緒にお昼食べようね。いろいろ話聞きたいし。バイバイ！」

そう言っただけで彼女は小走りで行っていった。僕は彼女の後姿をずっと見つめていた。

「ふう、フラグも立ったし今日はこれぐらいにして寝るか。」

そう呟いて俺はパソコンの電源を落とし、メガネを外した。

真っ暗になったディスプレイに映った俺の顔はかっこいいわけもなく、ただただ気色悪かった。

むしめがね

い
 い
 見た
 目
 だ
 け
 で
 も
 お
 お
 き
 く
 な
 り
 いた
 けれど
 言わない
 小槌とは
 打ち出の
 なりたい
 大きく
 すこし
 ほんの
 5
 と
 あ
 セ
 3
 やい
 チン
 で
 い

新社会淘汰説

事の起こりは20XX年。社会は高度に情報化し、張り巡らされたネットワークとコンピューターに囲まれ人々は生活していた。昼夜問わずディスプレイを注視し、目を酷使するその社会の中、人々は心身ともに疲弊していた。

そこに事件が起こった。その事件の源は一人の奇妙な赤ん坊だった。その子の目の周囲の骨は突き出し、そこには異様に大きな眼球が収まっていた。その目は暗闇でも視覚可能で、いくら酷使しても疲れることがなかった。

世間は大いに騒ぎ、環境汚染や放射能などが原因ではないかという憶測や、様々な偏見が入り乱れたが、結局原因を突き止めることはできなかった。

そのような子供は次々に生まれた。その異様な外見と原因が分からないことで彼らは当初差別や忌避の対象になった。そのためその家族は辛い思いをし、子どもが生まれる産婦人科ではある種の緊張が見られた。実際、私が生まれた時、両親は私が普通の外見であったことを最初に喜んだという。

奇妙な子供たちは次第に増えていった。彼らはその外見があたかも眼鏡をかけているようであったため、メガネ族と呼ばれた。はじめこそメガネ族に対する風当たりは強かったが、彼らは次々に生まれていったために人々の反応は薄くなっていき、メガネ族はいつの間にか社会の一員となっていた。

後に学者たちは、メガネ族は一代限りの突然変異や環境汚染の産物などではなく、目を酷使する社会の要望にこたえた進化の結果だった、と結論付けた。

メガネ族は非常に合理的な思考の持ち主であり、またその疲れを知らない目によってコンピューター中心の社会で重宝された。その間にもメガネ族は増えていき、時とともに社会は彼らに合わせられたものとなっていった。その社会はより合理的で目を酷使するものであり、普通の目しか持たない人々は疲弊し、倒れ、社会から姿を消していった。

さらに時がたち、社会は完全にメガネ族のものとなった。

新しい社会において、彼らは持ち前の合理的な性格で様々な社会問題を解決していった。その中でも彼らは特に環境問題に力を入れ、結果的に絶滅危機にある動物を多く救った。しかし自然淘汰されていく動物たちを保護することはなく、合理的な彼らは学習のためと、それらを動物園に送っていった。

あたりを見回す。鉄格子で区切られた景色の外から、私に好奇の視線を向ける人々。私の入れられた檻にかけられた標札。

「最後の旧人類」

そんなもんだよ

メガネを外した

俺のイメチェン

限界突破！

月下軍戯

中佐は困惑していた。深夜に呼び出され、さて、年若い上官の予想が現実になったかと来てみれば、その少将は悠々と月を見上げて、こんなことを尋ねてきたのである。

「月というのは、天上の者の瞳なのだと思うかい」

少将はこの台詞のよく似合う、子爵家出身の青年であった。彼は日頃から、有能だが情緒を全く解さない年上の副官に、このような問いを投げかけるのが好きだった。

「……とうとう詩人におなりになったのですか」

「からかわないでくれ。君はどう思う？」

おう、と、予想通りに返ってきた困惑の唸り声に、若すぎる少将は小さく笑った。

「満ち欠けは瞳の開閉、などと考えたことは無いのかい」

「詩的なものは解りかねます。閣下がおっしゃるのなら、そうなのではないですか」

「おや、丸投げかい。嘆かわしいね」

「……閣下。私への御用というのは、いつものお戯れのことですか。それならそうと言っていたきたい。私は緊急事態かと思つて、こうして急ぎ参ったのです」

ああ、それは良い心掛けだね、と悪びれもせず返して、少将は再び月を見上げた。

「ねえ中佐。昔はね、月は瞳で、その隻眼でいつも下界を見張っているのだと、そう思っていたんだ。でも違う、あれは瞳そのものじゃない。ただの片眼鏡さ」

「……はあ、片眼鏡、ですか。それが何か？」

「天上の者は視力が悪い、ということさ。つまり、目の悪い満月に見張りの役割を期待しても無駄というわけだ。……言葉遊びだよ、まだ解らないかい？」

少将は微笑んだ。悪戯が成功したときのような、幼い笑みだった。

「事前に放った斥候が情報を持ってきた。読み通り明日、満月の深夜、敵は奇襲をかけてくるようだ。勿論、満月の光を妄信して、こちらが油断していると考えてね」

その言葉を聞いた瞬間、中佐は全身の血流が速くなったのを感じた。無論、昂揚で、である。この読みこそ、若い子爵が、少将として一軍を率いていられる理由であった。

「あなたという方は！ 全く、お戯れもほどほどになさってください！ 回りくどいことをおっしゃらずに、そのまま伝えてくだされば良いものを……！」

「それでは面白くないだろう。敵の進路も陣形も、予想した通りでつまらないんだ。このくらいの楽しみがあっても許されるさ。……さて——」

眼鏡いらずの戦術眼を持った少将は、初めて笑みを消し、信頼する副官を見据えた。

「中佐、君に命じる。別動隊で敵の後背を突いて退路を断ち、私の率いる本隊との挟み撃ちで一気に片を付ける。……ああ、任務遂行後、本隊への合流は素早く頼む。頭の固いお偉い様方に、また若造が戦力分散の愚を犯した、などと言われたくないからね」

少将は再び笑った。中佐が毎回、見るたびに、自軍の勝利を確信する笑顔だった。

約束の日

「あーあ、またメガネこんなにして。あんたもねえ、いい加減、抵抗ってものしなさいよね。このメガネ買うのに、私が何カ月バイトしたと思ってるのよ。いい？ 私達みたいに親のいない子は誰も助けてくれないんだからね？」

茜が頬を膨らませてブーツとしている。

「ほんつと、ゆーすけは、勉強と手先が器用なことくらいしか取り柄がないじゃん。」

「…ごめん」

「ほら、またすぐ謝る。」

あははっ、と無邪気に笑う茜の横顔が夕日に照らされ、思わずドキッとしてしまう。

「で、高校受験はもう決まったの？」

「うん、奨学制度使って、開成高校行こうと思う。」

「そっか…、私は働くことにする、早く独り立ちしたいし…」

「俺…、俺、医者になりたいんだ。俺みたいに生まれつき目が悪い人達を助けたい。」

プツ、と茜が思わず吹き出す。

「何が『俺』よ。あんた、『俺』なんて使うのは、少なくとも私一人くらい守れるようになってからにきなさいって。」

幼い頃から常にイジメられてきた僕を、いつも守って助けてくれたのは、同じ孤児院で育った茜だった。

「…うん、頑張る…約束する。」

そんな彼女をみるたび、いつも僕は思った。

いつか…、いつか、彼女が泣くときは、必ず僕が彼女を守るのだ、と。

「山下祐輔先生、例の患者さんが来られました。」

「あの、し、失礼します。」

懐かしい声が、僕の耳をかすめる。

「どうも。お久しぶりですね。」

「ママー、ほんとにしゅじゅちゅ終わったら、優奈、ママのお顔見られるようになるの？」

不安そうな顔した優奈が、両手で私の顔に触れる。

「早くママも優奈の笑顔が見たいなー。手術、頑張っておいで。」

うん、そう言って優奈は移動用ベッドに静かに横になると、看護師達が手術室へゆつくり運んでいく。

「では、お母さんは説明がありますので、こちらへ。」まだ若い看護師が歩くべき方向を腕で促していく。

夫はまだ来ない。いや、来るはずがないのだ。私が妊娠したと知った時から、一度も顔を見せていないのだから。なぜ、こうなってしまったのだろう。

家族のいなかった私は、誰よりも幸せな家庭を築こうと頑張ってきたはずなのに。

娘が生まれてからは苦勞の連続だった。夫が不在で水商売をしながら日々の生計を立てる私に、眼の難病を患う娘の手術の話など、どこの病院もまともに取り合ってくれたことなど無かった。もとより、手術に必要なお金すら工面出来ずにいたのだ。苦しくて何度、娘と心中しようと思ったことだろう。

そんな時だった。

巷で“神の住む場所”とさえ称される程の名医のいる病院から、手術費無しで招待を受けたのは。

「こちらへどうぞ。」

看護師が優しい声で、立派な一室へ案内する。

「あの、し、失礼します。」

「どうも。お久しぶりですね。」

頭が真っ白だった。何が起こっているのだろう。メガネをかけた懐かしい顔が目の前にいる。

「あ、ありがとうございます。」

思わず、口からよそよそしい言葉が漏れる。

「いえいえ。何を言ってるんですか。」

「今度は、俺があなたを守る番ですよ。」

〇〇のメガネ

昔、こんな歌を歌った。皆さんも幼稚園児、小学生の時に歌ったことだろう。

♪とんぼのメガネは

水色メガネ

青いお空をとんだから・・・♪

(額賀誠志作詞 平井康三郎作曲)

「とんぼのめがね」

メガネは人間のものだけと思っていた自分に新しい世界が見えた。

メガネにはどのような効能というか、機能があるだろうか。よく考えたことはあるだろうか。一番の機能は遠くを見ることである。

近視の私はメガネがなくてはどのようなものもない。

ところで、かの徳川家康がメガネをかけていたことは大変有名な話である。家康が近眼であったかどうかは凡人の我々には詳しくはわからないが、メガネを通した家康の視線は何を見ていたのだろうか。

そんなことで「家康のメガネ」というのを作ってみると、こんな感じになるだろうか。

♪家康のメガネは

ほこりのメガネ

長い時間を待ったから？♪

家康の眼が常にいろんな方向を向いていて、

どんな時も落ち着いて待っていた。それは家康のメガネのおかげ？それにしても急進的改進黨がいいのか、それとも保守派がいいのか、そこは答えがわからない。「埃」と「誇り」を掛けてみたがいかななものか？

続いては、日本のメガネについて考えてみたいと思う。例えば、日本のメガネはどうなっているかと考えると何がいろいろ。ねじれ国会で与野党の攻防、不景気・・・今の日本が掛けているメガネはこんな感じだろうか

♪日本のメガネは

真つ黒メガネ

全く先が見えんから♪

真つ黒のメガネか・・・我々がかけさせられているのかもしれない。いや、真つ黒ではないのかもしれない。今はただ光が強すぎて光の散乱で見えないのかもしれない。

もしそうなら自分たちで何とか改良すればいいのか？偏光板をつけるとか・・・

メガネ、それは我々の視力を向上させるもの。では「社会のメガネ」とは何だろう。我々の世界の見方を変えるものである。たとえばテレビやインターネットだろうか。ひよっとすると普段の会話か。しかし、物質的な意味では世界そのものは変わっていない。

そう考えると、もしかしたらこの世界も落魄したものではないかもしれない。「明るいメガネ」をかければいいのだ。

「おかあさま、これからナンパをしてくるよ」中学にあがったばかりの息子が、玄関で言った。

「何を言っているの、あなたのような男が、女性にモテるはずないでしょう」母はいつものように息子を叱った。

「大丈夫さ、今日はサングラスをして行くのだから」息子は得意げだ。

「サングラスって、それは3Dメガネというのよ」母はあきれて言う。

「3Dメガネ？」息子はよくわからない。

「そうよ、それで映画や本を覗けば飛び出て見えるのよ」母は解説する。

「そうか、ではこれで女の体を見よう。出るとこ出て見えるというわけだね」息子は発想を転換させた。

「そんなにうまくいかないのよ人生は。そんなことより私があなたをモテ男にしてあげるわ。ちよつと待っていないさい」母は息子を玄関に待たせ、油性マジックを持ってきた。

「おかあさま、これはもしかして」息子は口周りと、胸元から腕にかけて数十本の毛が描き足された。

「ほーら、ワイルドになったわ。まるで土木作業員の様よ」母は満足げな顔をしている。

「ありがとうおかあさま、まるで土木作業員だ。土木作業員さながらだ。それじゃあナンパをしてくるよ」息子は家を出た。

2時間後、息子は一人の女を連れ帰った。女はとてもブスだったので息子は落ち込んでいた。

「あら、とてもブスな女をナンパしたのね。いいわ、私がかわいくしてあげる。」

母は女のほっぺを両手でワシ掴みし上下左右に激しく振るわせた、と同時にものすごい肺活量で息を吹きかけ、舌で顔のニキビやそばかすを舐め回し、顔の汚れを見事に食べた。

「おかあさま、気持ちが悪いわ」ブス女はとても嫌がった。息子は信じがたい光景から目を背けていた。

「完成よ」ブス女の顔面は、母にそっくりになった。

「ああ、もう肉眼で見られる顔じゃないや」息子はそつと3Dメガネをかけた。

メガネの紳士

「旧約聖書にあるソドムとゴモラを滅ぼした天の火だよ。ラーマヤーナではインドらのやりと呼ばれているがね」

博識な彼に合う知的なメガネ。空からの光により、地上とともに赤く燃える。

「見ろ！人がごみのようだ！」

炎上する飛行船とそこから落下する人々の様子を見ながら、彼は残酷にこう言い放った。
地獄絵図も彼のメガネを通せば、滑稽に思えるのかな？

「次は耳だ。跪け！命乞いをしろ！」

おさげをひとつ失った少女に向かってあなたは言う。正確に獲物を打ち抜くあなたの鋭い眼はメガネの奥で怒気をはらむ。

「目がー！目がー！ー！」

追い詰められた少年少女の呪文により、あなたは相棒をなくす。そのときのあなたの悲痛な声、断末魔はきつと日本中の人々の心に残り、語り継がれることだろう。

あなたの言葉はいつまでも心に…

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	あなたとのさようなら	6 pt	7 位	0 sp
		会うは別れのはじまり。どんなにお世話になったモノでも、容赦なく別れの日はやってくる。そこをとてまあつけられかんと、「そして、さようなら」と投げた思い切りの良さがすがすがしい今週の表紙でした。		
A02	眼鏡とは？	7 pt	5 位	2 sp
		がっつり正統派。神がかり能力を持ってるよね、だから「鏡」なのさとロジックも力強く説得的で、メイドカフェへの寄り道という読者サービスも効いてます。 惜しいのは、かわいい女の子+メガネ=残念という図式。序盤で読者を敵に回してしまうのは避けたい。 特別賞：メイド賞（白いエプロン着てたから）メガネの神秘賞（大胆さ！）		
A03	俺のメガネ	7 pt	5 位	3 sp
		とぼけ味が絶妙でした。 たんたんと言って、そのさりげなさのままでクライマックス。さあ行くぞ行くぞと大げさな身振りから発せられる笑いとは異なった味わいです。 「ごっそり」という個性的な形容もいいなあ。 特別賞：残念賞（残念！） かわいそうで賞 なつかしいで賞（どこかしらで起こっているから） イチオシフレーズ：「折れました。」		
A04	夢か現か	6 pt	7 位	2 sp
		あーあ、やっぱり夢と消えましたか、お約束の展開すぎるもんね。 読者の期待通りのオチなのですが、引っ張りかたのうまさと、特にラストの黒画面のマヌケさが光って、しみじみ苦笑。 特別賞：SNEG賞（輝いていた。液晶の中で） 東工大には何人いるで賞（話がリアル）		
A05	むしめがね	13 pt	2 位	1 sp
		これはグッジョブ！ 一寸法師の思いのような。いやあの時代に虫眼鏡はなかったか。 視覚と文体のコラボレーションのお手本でした。 来週の「広告」でこの路線、爆発しそうですね。そんな先導者の役割もにないつつのシルバーメダル、おめでとう！ 特別賞：デザイン賞（デザインがいい） イチオシフレーズ：「あと5センチいや3センチでいい」「俺」×2		
		13 pt	2 位	0 sp
		人類交代、なるほどね。		

A06	新社会淘汰説	メガネ族という造型が秀逸です。しかも「合理的な性格」とちゃんと文明批評テイストも加えたところが、ただのお話に終わってない良さで、シルバーメダルも納得の筆力・構成力でした、おめでとう!! ただ、たった一世代でこうもドラスティックに逆転するかなあと、そこだけ疑問。 イチオシフレーズ：「最後の旧人類」			
A07	そんなもんだよ	<table><tr><td>0 pt</td><td>12 位</td><td>3 sp</td></tr></table> 本文のパワフルさと、タイトルの脱力感の落差が、本人←見守るなまあたかい目のようで、すてきでした。 その謎加減がみんなの心に残って、特別賞を3つも受賞です。 特別賞：そんなもんで賞（そんなもんだよ…。） 下限突破で賞（そんなもんですよね） いみわかんないで賞	0 pt	12 位	3 sp
0 pt	12 位	3 sp			
A08	月下軍戯	<table><tr><td>16 pt</td><td>1 位</td><td>0 sp</td></tr></table> 少将、ハマリ過ぎ！スタイリッシュなセリフ回しに、そのすずやかな表情まで見えるようで、もうぞっこんです。 たった1シーンをフォーカスするだけで人柄や価値観、そして二人のあいだに結ばれた信頼感（むしろ恋心）まで描き出してブラボーです。 回文からスピカを経て、ついに射止めましたね、満月のごとき、まんまるゴールドメダル。おめでとう!!!	16 pt	1 位	0 sp
16 pt	1 位	0 sp			
A09	約束の日	<table><tr><td>12 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr></table> 男性視点と女性視点、ふたりの人生にふたつのドラマ。出会って別れてまた出会う。 ちょっとせわしない感もあるけれど、両方のドラマを見せちゃえという欲張りサーヴィス二段組でした。 イチオシフレーズ：「しゅじゅちゅ」「今度は俺があなたを守る番ですよ」	12 pt	4 位	0 sp
12 pt	4 位	0 sp			
A10	〇〇のメガネ	<table><tr><td>1 pt</td><td>11 位</td><td>0 sp</td></tr></table> 歌に託して歴史蘊蓄、そして日本の将来へ。 要所に歌詞を置いたことで、論点がクリアに見えるという工夫が良かったです。 個々のパーツはしっかりできているので、正統派としては、もう少し流れがつかれるとよりパワフル。	1 pt	11 位	0 sp
1 pt	11 位	0 sp			
A11	母	<table><tr><td>4 pt</td><td>10 位</td><td>0 sp</td></tr></table> おかあさま最強。 バイオレンスな（はずの）光景を、まったり会話で進めてしまう、ちぐはぐ感が絶妙でした。 世の男性諸君の悲哀を背負って、息子くんがんばれ!? イチオシフレーズ：「土木作業員さながらだ」×2	4 pt	10 位	0 sp
4 pt	10 位	0 sp			
A12	メガネの紳士	<table><tr><td>5 pt</td><td>9 位</td><td>4 sp</td></tr></table> ラストはムスカ。永遠の名セリフ。オマージュだったでしょうか。 なつかしの場面の追体験でした。 なんとほんと、いろんな意味での話題性、最多特別賞とイチオシフレーズ大賞とのダブル受賞です。 特別賞：ムスカ賞（ムスカ最高!!）TAの独断で賞（うちわねたルール違反なのに、なぜ採用した!?)（←TAさんに替わってコメント レギュラー投稿でした。いず	5 pt	9 位	4 sp
5 pt	9 位	4 sp			

		れにせよ既成のキャラクター依存ではあるけれど、うちわねたとまでは言い難いでしょう。) この班では知らない人が多くて残念で賞(乙。) バルス賞(ロムスカ・パロ・ウル・ラピュタ) イチオシフレーズ:「インドら」×2「目がー! 目がー!」×2「見ろ! 人がゴミのようだ!」×2
--	--	--

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	せめて二秒見つめて、	10 pt あうあう。「ソーダ味のキス」にTA陣めろめろで本選入りしました。 乙女心のドキドキ感がしっかり伝わってきます。 それとともに乙女心おそるべし。メガネをはずしちゃうような遊び人には、自分の将来は預けないよとハナから見切っているのね。 ゆでたまご妄想から、渋い漁師さんになって、こんどはソーダ味。いちばん恐るべきはこの書き手さんのオールラウンダーぶりかもしれません。 理想の味は何味が論争をフロアに巻き起こしつつ、ソーダ味がヒットしてのイチオシフレーズ大賞です。祝! 特別賞:ソーダじゃなくてレモンで賞(レモンだったらもっとポイントが入っていたかも) 私はポカリスウェット味のkissがいいde賞(だってもっと、甘いのがいいじゃん) イチオシフレーズ:「ソーダ味のキスをした。」×5 (僕たちはレモンがいいです、とB-7班より)「せめて二秒見つめて」	5 位	2 sp
B02	漸進性失明症候群	17 pt 光感染。 秀逸なアイディアを、GBSだの水晶体の分析だのと細部を練り込んで、くっきり形にさせていただきました。 科学物から社会派へ。映画のストーリーになりそうなドラマを、このコンパクトななかにおさめて、オチまでついて、あざやか! フロアも本人も納得のゴールドメダルでしょう、おめでとう!!! 特別賞:超リアルで賞(フィクションなのにリアルっぽい) 長いで賞(読むのがたいへん) イチオシフレーズ:「デルリッシュ大学」	1 位	2 sp
B03	面倒	1 pt ふたりの会話プラス脳内ツッコミで三拍子。 語り手の関心の大きさがフォントの大きさとシンクロしている工夫がおもしろいと読みました。 そこをもっと追求して派手に展開しても良かったか。 特別賞:めんどくさいで賞(ぐだぐだ感)	11 位	1 sp
B04	ファンシー・グラスィズ	16 pt 不思議なメガネが全部で4つ。ファンタジックでブラックで。 場面ごとにぽんぽんと見せてゆく展開の巧みさがここちよい。首位に1ポイント差と肉薄するシルバーメダルでした、おめでとう!! タネアカシ部分の説明セリフだけが、「要調整」と読みましたが、さて。 イチオシフレーズ:「ファンシー・グラスィズ」	2 位	0 sp

	B05	無題（とんぼのめがねは……）	6 pt6 位2 sp	替え歌遊びで賑やかに。 最終連、リズムは崩れちゃったけど、しっかり反省して ところがナイス。 特別賞：童謡賞（「歌って」って無茶ぶりが発生!!）松 尾芭賞（リズム感がよい……芭蕉の絵つきまたまたグッ ジョブB-10班）
	B06	アクセサリー： メガネ	0 pt12 位2 sp	ゲームの1シーン、うんあるある、この悩み。と共感を 誘うシチュエーションでした。 特に「さあ、どうする。」で止めたところが、読者を引 き込む仕掛けになっていて良いですね。 特別賞：メガネを取るべきで賞（メガネの方がカワイイ から）F・Fで賞（ぽいから）
	B07	生まれ変わった あいつ、生まれ 変わる俺	4 pt8 位1 sp	えーそこお？とラストの1行にざぶとん1枚。 だってふつうは、俺もあいつにふさわしいように変わる ぞお、ですよ。 その裏切りぶりが、人生の達人を思わせました。 特別賞：SF賞（美人はメガネごときで封じられません）
	B08	鮮烈な視界	6 pt6 位1 sp	見えすぎてしまうことの不幸。赤をアクセントカラー に、文字通り鮮烈に造型してホラーまざまざ。 日記スタイルにしたことで、スピード感が備わってま す。 特別賞：なすきのこで賞（なすきのこ……らしい） イチオシフレーズ：「気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪い 気持ち悪い」
	B09	相棒	2 pt9 位0 sp	そうだね。身につけるモノのなかでも、とりわけ愛着 のわくアイテムでしょう。 タイトルもはまって、まっすぐさっくり語ってとても好 印象です。 イチオシフレーズ：「まだまだよろしく」
	B10	いろいろメガネ と誤解	2 pt9 位0 sp	ひとりの転校生をめぐるっての色眼鏡鑑定4態。 それぞれに論拠が備わっているところが、うんうん、人 の評価ってそうだね、と納得。ドラマの始まり気分 で、ひとつの真実をお伝えいただきました。
	B11	僕とメガネ	13 pt3 位3 sp	わあ、すごいすごい。 このヘタレ人生めと、へらへら笑っていたら「何事にも めげない精神力」がずどーんと不意打ち。おみごと！ そしてまさかの実話発言。ほおお、と身を捨てた芸にフ ロアは啞然、いやむしろ肅然。そんな嵐を巻き起こしつ つ、めでたくブロンズメダル&最多特別賞ゲットでし た。おめでとう!! 特別賞：のび太賞（実話の人がいました）作者の顔が見 たいで賞（メガネをはずすとにているというフレーズか ら）前向きで賞（応援したくなるから。） イチオシフレーズ：「のび太」「そんな顔してたんだ」
	B12	転職しろよ	13 pt3 位1 sp	なるほどね、とラストでタイトルに戻れるつくりでし た。そのシンプルさがウケてのブロンズメダルでした ね、おめでとう！ で、伊達さんに似合う職業は何でしょう。アパレル？

		そんなふうに転がしてみるのも、またおもしろい、かも。 特別賞：転職しま賞（はまったガ〜リガ〜リ君） イチオシフレーズ：「伊達」×3
--	--	---